



高い評価、採択にも有利

この事業の採択を受ける中で、評価の高い工法の一つとして注目されているのが丸太組構法。丸太の木材を材料に使うことで、丈夫な構造、防火性能、リサイクル効果、調湿性、省エネ性などの優れた効果が期待されている。その歴史は古く、日本では1300年前に作られた校倉(あぐら)造りの正倉院が有名。北欧

多気町笠木の特養 鉄骨とコスト同程度に ぬくもりあふれるホームに

多気郡多気町笠木で現在建設中の地域密着型小規模特別養護老人ホーム「とぎだの里」(延べ床面積1159平方メートル)も、木のまちな整備事業で、ログハウスの工法が採択を受けた事例の一つ。今春の完成を目指している。評価されたポイント

松阪から材木 利用の促進を

かな森林に囲まれた地域。中でも前記の老人ホームが建てられる多気町は、地域材の利用拡大と森林整備の推進を図る「新生産システム」(全国11地域)のうち、中日本圏の拠点工場「西村木材多気工場」がある町としても知られる。「木のまちな整備事業」の採択を受けた老人ホームや新生産システムを拠点として、松阪地区から発着する木材利用促進の新しい取り組みへの期待は今後ますます広がっていくだろう。

今、注目はログハウス

●建物に木造の時代 目指す

「保育園」「老人ホーム」「コンビニ」「スーパー」……。まちな見慣れた建物がすべて木で建てられる「木のまちな」。こんな未来が、近い将来に訪れると想像できるだろうか。国は「昨年、10年後の木材自給率を50%に引き上げる目標を掲げ、木材利用促進のためのさまざまな補助金制度も創設した。地元が多気郡多気町で建設中のログハウスの老人ホームも、それらの制度の採択を受けた事例の一つ。これまで鉄骨、鉄筋コンクリート造が当たり前の建物の時代、新制度を活用すれば同等の費用で木造にできる絶好のチャンスが、まさに今訪れている。

コンクリートから木へ

農林水産省は昨年12月、国内林業の再生と低炭素社会の実現に向け、一つの方向性をまとめた。タイトルは「森林・林業再生プラン」。掲げたテーマは「コンクリート社会から木の社会へ」。具体的には、林業再生による中山間地域での雇用拡大や経済活性化、行き届いた管理による

「木のまちな整備」に補助

中でも再生可能な循環資源の木材を大量に使用すること、大規模な建築物の整備を促進しようと、国土交通省が本年度に創設した補助金制度が「木のまちな整備事業」。「木造のまちづくり」を推進する設計・施工技術の導入による大規模な建築物の木材化・木質化を実現する事業計画の提案を公募し、優れた提案に対しては費用の一部を補助する。具体的な整備事業を広く公開することで、木材建

先進事例には国補助金も

多気町でモデルケース

住宅「木造軸組工法による特別養護老人ホーム」などさまざま。

森林・林業再生プラン(イメージ図)

- 強い林業の再生に向け、路網整備や人材育成など集中的に整備し、今後、10年以内に外材に打ち勝つ国内林業の基盤を確立
- 山元へ利益を還元するシステムを構築し、やる気のある森林所有者・林業事業者を育成するとともに、林業・木材産業を地域産業として再生
- 木材の安定供給体制を構築し、外材からの需要を取り戻して、強い木材産業を確立
- 低炭素社会づくりに向け、我が国の社会構造を「コンクリート社会から木の社会」に転換

《木材の安定供給体制を構築し、儲かる林業を実現》



～ コンクリート社会から木の社会へ 木材自給率50% 低炭素社会の実現 ～